

シグマ研究委員会核データ専門部会ガンマ線生成
核データワーキンググループ56年度第1回会合議事録

日 時 昭和56年6月1日(月) 13:30~17:30

場 所 原研本部第4会議室

出席者 川合, 井頭, 播磨, 北沢, 河北, 水本, 浅見, 五十嵐

配布資料

1. ガンマ線生成核データワーキンググループ55年度のまとめ
2. DIGSTOR, Discrete Gamma-ray Storage Program

議 事

I. 一般報告

本年度のシグマ委員会の旅費, 昭和54, 55年度の委員会活動報告の学会誌への寄稿など, 運営委員会で行なわれた討議の内容が紹介された。

今後行なわれる予定の国際会議の紹介があり, 出来るだけ参加する努力をすることが話し合われた。

II. 北沢氏の帰国報告

一昨年11月から米国 Duke 大学に留学していた北沢氏が帰国したので, 米国での研究活動を中心に話を聞いた。

III. 作業経過報告

1). INDC(NDS)-112 / LNQ 調査報告(井頭).

収録されている文献の調査が終っている。収録されている文献に載っている数値データは相当龐大である。次回に資料をまとめて提出する。

2). DIGSTOR 報告(水本)

資料により入力形式の説明があった。

コメントがあれば6月15日までに水本氏まで申し出ること。

連続スペクトルデータの収集格納について議論があり, NESTOR-2 を利用することを検討することにした。これに関連してNESTOR-2 の index を各担当者に送ることとし, データ収集作業を7月末までに終えるこ

とを申し合せた。

3). GROGI - IV の入力量について (川合).

OHP により入力量の説明があった。

出力量を ENDF / B - IV 形式に変換する際の対応関係を明記しておくことになった。

4). SPLINT 改訂について (浅見)

ENDF / B - IV データのプロット部分の改訂は 6 月中に終える予定である。

測定データのプロットは

NESTOR - 1 → SPLINT

が可能である。

IV. 今後の予定

データ評価作業を年内に終了するようにする。

次回 6 月 29 日 東京

北沢氏が帰国したのでグループリーダーに復帰してもらうことになった。